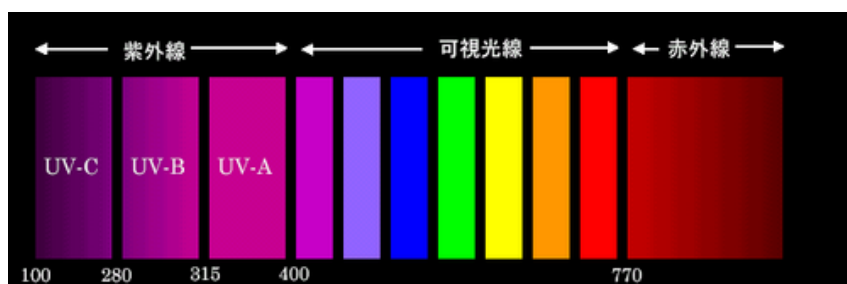




これから、松本工業さんの職業特性に合わせた健康コラムを連載させていただきます。まずは、日中の屋外での作業を考えると、紫外線の影響を考える必要があります。全3回のシリーズで紹介します。第1回目は、「紫外線とは？」です。

紫外線とは

太陽からの日射は、波長により、赤外線、可視光線および紫外線に分けられます。可視光線よりも波長の短いものが紫外線です。紫外線(UV)の中でも、波長の長いほうからA・B・Cと大別されています。フロン等によりオゾン層が破壊されると、地上において生物に有害な紫外線(UV-B)が増加し、生物への悪影響が増大することが懸念されます。



UV-A (315-400 nm)

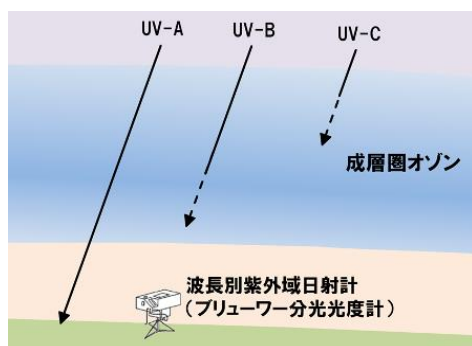
大気による吸収をあまり受けずに地表に到達します。生物に与える影響はUV-Bと比較すると小さいものです。太陽からの日射にしめる割合は数%程度です。

UV-B (280-315 nm)

成層圏オゾンにより大部分が吸収され、残りが地表に到達します。生物に大きな影響を与えます。太陽からの日射にしめる割合は0.1%程度です。

UV-C (100-280 nm)

成層圏及びそれよりも上空のオゾンと酸素分子によって全て吸収され、地表には到達しません。



各領域の紫外線とオゾン層の関係

国土交通省気象庁ホームページ参照

コメント:今回は、「紫外線とはなんだろう」でした。オゾン層の破壊により現在は、UV-A・Bが、どんどん、体に悪影響を与えていることがわかりました。次回は、具体的にカラダの影響ついて学んでいきましょう。